

慶良間諸島の鳥類

嵩原 建二*・池間 幸男**・兼城 克男***

Birds of the Kerama Islands, the Ryukyu Archipelago.

Kenji TAKEHARA*, Yukio IKEMA** and Katsuo KANESHIRO***.

Abstract : The Kerama Islands are located about 40km, southwest of Naha. Naha is located on the Southern part of Okinawa-jima, the Ryukyu Archipelago. The Kerama Islands consist of Tokashiki Island, Zamami Island, Aka Island, Geruma Island and several uninhabited islands.

The authors examined birds on the Kerama Islands from 1986 to 1994 and recorded 102 species. Among the researched birds, there were 23 resident birds. The species *Scolopax mira*, *Ciconia nigra*, and *Branta bernicla orientalis* are worth special mention.

On Tokashiki Island and Aka Island, the authors recognized the *Scolopax mira*, an endemic species of the Ryukyu Archipelago, which was designated by Okinawa Prefectural Government as a natural monument. Tokashiki Island and Aka Island are new habitats for the *Scolopax mira*.

はじめに

沖縄島南部の那覇市から南西約40km 洋上に慶良間諸島がある(図1)。地理的位置は東経 $127^{\circ}13'$ ~ $127^{\circ}29'$ 、北緯 $26^{\circ}65'$ ~ $26^{\circ}16'$ の間に位置し、ここには無人島を含む大小20余にもなる島々が散在している。慶良間海峡を挟んで東側は渡嘉敷村に属し、西側は座間味村に属している。大部分の島が山地的な地形で平地が少なく、農地に恵まれず、海岸線は沈降したリラス式海岸をなしている。特に座間味島の高月山(標高131m)からの眺望は他に比類のない風光明媚な景観を有し、大部分が国定海岸公園としての保全が図られて

* 沖縄県立博物館、** 沖縄野鳥研究会、*** 沖縄野鳥の会

*Okinawa Prefectural Museum, **Okinawa Bird Study Society, ***Wild Bird Society of Okinawa.

いる。

慶良間諸島における鳥類の記録は、古くは KURODA (1925) や岡田ら (1959) などの研究があり、また近年では池原 (1974) や与那城 (1976)、田中 (1987) などによって断片的な報告が見られる。しかしながら、これまでの確認種数は 50 数種と少なく、鳥相についても詳細な検討はなされていないのが現状である。

筆者らは慶良間諸島の鳥類相について明らかにするため、1986 年から数回にわたり慶良間諸島の島々を訪れる機会に恵まれ、また筆者の一人である兼城は 1986 年から 1991 年までの 6 年間渡嘉敷島に居住し、渡嘉敷島における鳥類についての資料収集にあたった。

さらに座間味村屋嘉比島における鳥類調査は、県設屋嘉比島鳥獣保護区（全域特別地区）の存続期間更新に伴い、鳥獣類の生息現状を把握する目的で行われた沖縄県環境保健部自然保護課による動物調査の一環として実施されたものである。

これらの調査の結果、慶良間諸島の鳥類について若干の知見を得たので報告する。

本報告をまとめに際し、調査に便宜を図っていただいた沖縄県環境保健部自然保護課、沖縄県教育庁文化課、座間味村振興課及び座間味村教育委員会に厚く御礼申しあげる。また座間味村の宮里哲雄氏、宮平秀幸氏、宮平善孝氏、宮平優氏、宮城武氏、金城英幸氏の各氏には調査に協力していただき、また貴重な助言をいただいたので深甚なる感謝を申しあげる。さらに貴重な鳥類情報や写真を提供して下さった沖縄野鳥研究会の山城博明氏と比嘉邦昭氏にも感謝申し上げる。

調査地概要および調査方法

慶良間諸島はほとんどの島が起伏に富む山地地形をなし、山地が海岸までせり出しているため、海岸側は急峻な傾斜面となっている。このため平地が少なく、農耕地も少ない。

小西 (1965) によれば、慶良間諸島の地質は中生代の国頭累帯に属し、結晶片岩類、千枚岩、砂岩などを基盤にしているとされる。

宮城 (1974) によると、慶良間諸島に自生する植物は帰化植物を含め、シダ植物以上の高等植物が 584 種記録されている。そして、植物相は全体的に同じ地質を持つ沖縄島北部の国頭山地とよく似ているとされる。また、植生については新納ら (1974) によると、山地や丘陵地の常緑広葉樹林地域にリュウキュウアオキースタジイ群集やスダシイーリュキュウマツ混交林などの二次林、タブークロツブ群落などが識別されている。また代償植生としてのリュウキュウマツ林等の植生を識別している。

調査の概要については、表 1 に示したように、調査開始は 1986 年 4 月にさかのぼり、調査日は 1994 年 12 月まで期間に現地調査を延べ 15 日行った。

調査方法は集落や周辺農耕地、海岸などをゆっくり歩き、目撃及びさえずりで確認された鳥類を記録するようにした。また、各島にある林道や農道などを車で10km程度の速さで走り、目撃される鳥類を記録した。なお座間味島と渡嘉敷島の林道では車上ロードセンサス法で夜間調査を実施した。

しかしながら、各島ともその調査時期や調査方法などが若干異なる。また、調査環境も島により異なるので、以下島ごとに調査地の概要としてまとめた。

1. 渡嘉敷島

渡嘉敷島は慶良間諸島最大の島で、面積15.29km²、島の周囲は28.33km、標高227mである。この島は渡嘉敷村に属し、ここに村役場が置かれ、人口も668人と渡嘉敷村の中心となっている（写真1）。

渡嘉敷村にはこの島以外に前島、儀志布島、黒島、慶伊瀬島（神山島を中心とするチビシ）など大小十余りの無人島が所在する。

渡嘉敷島は地形的には山地部が標高200m内外の丘陵が連なり、山地部が海に落ち込むように海岸に迫り出しているため、海岸の斜面は急峻で、平地部は少ない。したがって、海岸低地に沖積低地や砂丘がわずかに見られ、島中央に渡嘉敷、島南側に阿波連、島中央西側に渡嘉志久などの集落がある。

佐久本（1984）によると、山地部や丘陵部のスダシイ群落は、西岳や前岳の山頂部に残存し、島の大部分はリュウキュウマツ林で占められている。また、風衝地の植生がよく発達し、海岸沿いの斜面や崖にリュウキュウチク群落、オキナワハイネズ群落等が識別されている。海浜ではツキイグ群落、アダン群落などが発達するとしている。

調査は渡嘉敷の集落及びその後背地の農耕地、水田と国立青年の家周辺、山地部では山稜部を走る林道などで実施し、現地調査は1986年4月と9月の2回行った。

調査方法は車で林道や農道を10km/h内外の速度走り、目撃及び鳴き声等で確認した鳥類を記録し、また渡嘉敷の集落や海岸周辺、渡嘉敷川、ダムなどを歩き回り、その周辺地域で目撃される鳥類を記録した。

なお本島では1986年9月に大谷林道（調査距離4.0km）で夜間車上ロードセンサス法による鳥類調査を実施した（図2）。

2. 座間味島

座間味村に属し、慶良間諸島では渡嘉敷島に次いで大きな島で、面積6.66km²、島の周囲は24.28km、標高160.7mである。座間味の集落内に座間味村役場が置かれ、人口も548人と座間味村の中心をなしている（写真2）。

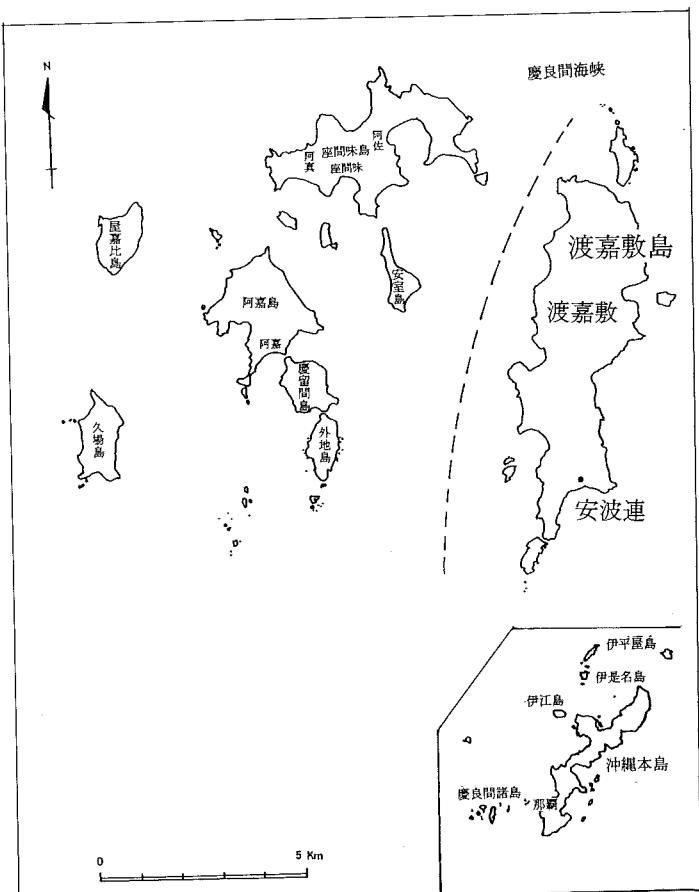


図1 慶良間諸島位置図

地形的には大城（1983）によると、全般に山勝で、大きく南西側ブロックと北東側ブロックに分けられ、島の周囲の海岸線は複雑に屈曲し、北側海岸は山地が海岸に突っ込み、急峻な地形をなしているが、南海岸側は緩傾斜で沖積低地が発達していて、集落地となっている。

地質的には大城（1983）によると、岩相的には下位から片状砂岩・片状砂岩・千枚岩互層、それに片状砂岩勝ち千枚岩互層からなり、それらは各不整合をなしている。

植生については、佐久本（1984）によると、リュウキュウアオキ・イタジイ群集は残存林的にしか見られず、大部分がリュウキュウマツ林を主体とする二次林である。

農耕地は集落周辺にわずかみられるが、一部海岸低地の砂丘や沖積地に放棄した農地の跡が散在する。

調査時期は1991年1月、1992年1月、1994年7月、11月、12月の延べ5回実施した。

調査方法は車で番所林道や久岳林道を10km/h内外の速度走り、目撃及び鳴き声等で確認した鳥類を記録し、また座間味・安佐などの集落やその後背地の農耕地、海岸周辺を

歩き回り、周辺地域で目撃される鳥類を記録した（図3）。

なお本島では番所林道（調査距離4km）で車上ロードセンサス法により夜間調査も同時に実施した。

3. 阿嘉島

阿嘉島は面積3.82km²、島の周囲は12.32km、標高187mの島である。人口は272人で、集落は阿嘉だけである。

植生は佐久本（1984）によると、他の島と同様に大部分がリュウキュウマツ林で覆われ、山頂部にタブノキ林が発達しているとしている。

調査は1991年1月及び1992年1月の2度にわたりは実施した。調査地は集落周辺及び集落北側の湿地で行った。

4. 慶留間島及び外地島

慶留間島は面積1.15km²、島の周囲は4.84km、標高157.4mで、人口は75人を擁し、隣接する外地島とは橋で結ばれている。外地島は面積0.83km²の小さな島であるが、ここに慶良間空港が開設され、那覇から1日3便のエアコミューター機（7人乗り）が就航している。

外地島は地形的には海岸から標高約30mの高さにある段丘面を平坦にならして平地を広げ、ここに滑走路が建設されている。

植生は両島ともほとんどが他の島と同様に山地部はリュウキュウマツ林を主体とした二次林で、海岸部風衝地にトゲイヌツゲ群落及びリュウキュウチク林やタブノキが混生するイタジイ林が発達する。

調査は集落周辺や空港周辺などにおいて、1991年1月と1994年12月の2回実施した。

5. 屋嘉比島

屋嘉比島は慶良間諸島の南西のへりに位置する島で、面積が1.26km²、島の周囲は5.29km、標高214.4mと小さな無人島である（写真3）。

この島ではかつて銅山が開かれ、昭和13年頃には1,300人が移り住むほどの活気があったとされるが、第二次大戦後は無人島と化し、現在では年1回頂上の御嶽へ御参りすることや釣り人がたまに訪れる程度だと言われる（垣花、1978）。島に上陸するとまず目立つのが、この銅山から投棄された残しがむき出しのガラ場となっていて、草木も繁茂せずに崖くずれのような景観を呈していることである。

沖縄県環境保健部編（1993）の「環境保健行政の概要」（平成5年度版）によると、屋

嘉比島は昭和49年に全域が「鳥獣保護区特別地区」として設定されおり、ケラマジカや野鳥等の保護及び繁殖地の保全が図られている。また、本地域は1972年（昭和47年）5月15日に国の天然記念物「ケラマジカおよびその生息地」として指定をうけている地域であり、ケラマジカとその生息地である島全体が保護されている（沖縄県教育委員会、1993）。

鳥類調査を実施した地域は、図4に示したように屋嘉比島南東海岸の砂浜から島の南東部斜面を望む地域と洗礫場跡に沿うように森林内の山道を500m程度登った地域である。その調査環境としては、海岸砂浜と海岸部にハマゴウ、アダン、リュウゼツラン、テリハクサトベラなどが群生する地域と、島中央から海岸に向かって急傾斜を持つ斜面や谷部にオオバギ、ヤブニッケイ、ガジマル、クロツグ、イトスキ、リュウキュウマツなどが混生する地域の2つの環境を含んでいる地域であった。

鳥類調査は1994年7月26日と11月21日の夏季と冬季の2度にわたり島に上陸して実施した。調査方法は図4に示したように、海岸線と山道に各1本（距離約0.5~1km）の調査ラインを設置して、ラインの片側50m（両側100m）の範囲で目撃及び鳴き声等で確認される鳥類を記録した。また海岸部に2ヶ所の定点調査地を置き、30分間の定点調査によって目撃及び鳴き声等で確認される鳥類を記録した。

表1 鳥類調査概要

調査期日	調査時間	調査場所	天気	調査方法	備考
1986/ 4/29	--終日--	渡嘉敷島			
1986/ 9/27	-- "	渡嘉敷島			
1986/ 9/28	-- "	渡嘉敷島			
1986/ 9/29	-- "	渡嘉敷島			
1991/ 1/ 9	8:00~10:30	座間味島	晴	林道車上ロードセンサス	
1991/ 1/ 9	17:30~18:30	阿嘉島	晴		
1991/ 1/10	9:30~ 9:30	座間味島	晴		
1991/ 1/10	12:00~16:40	慶留間島	晴		
1991/ 1/11	6:30~ 7:30	座間味島	晴		
1992/ 1/21	13:40~15:00	慶留間・外地島	曇		
1992/ 1/21	17:00~19:00	阿嘉島	曇		
1992/ 1/21	22:00~23:00	座間味島	曇	夜間車上ロードセンサス	
1992/ 1/22	8:00~12:00	座間味島	晴	林道車上ロードセンサス	
1994/ 7/26	20:00~22:00	座間味島	晴	夜間車上ロードセンサス	
1994/ 7/26	9:00~11:00	屋嘉比島	晴		
1994/11/21	14:30~17:00	屋嘉比島	晴		
1994/11/21	20:00~21:00	座間味島	晴	夜間車上ロードセンサス	
1994/12/ 2	--終日--	"	晴		
1994/12/ 3	-- "	"	曇	車上ロードセンサス	
1994/12/ 4	-- "	"	曇	"	
1994/12/ 5	-- "	"	曇	"	



図2 渡嘉敷島における調査ライン

○：ラインの始まり ▲：ラインの終り ●：アマミヤマシギの確認地点
(国土地理院発行 1/25000 地形図を改変)

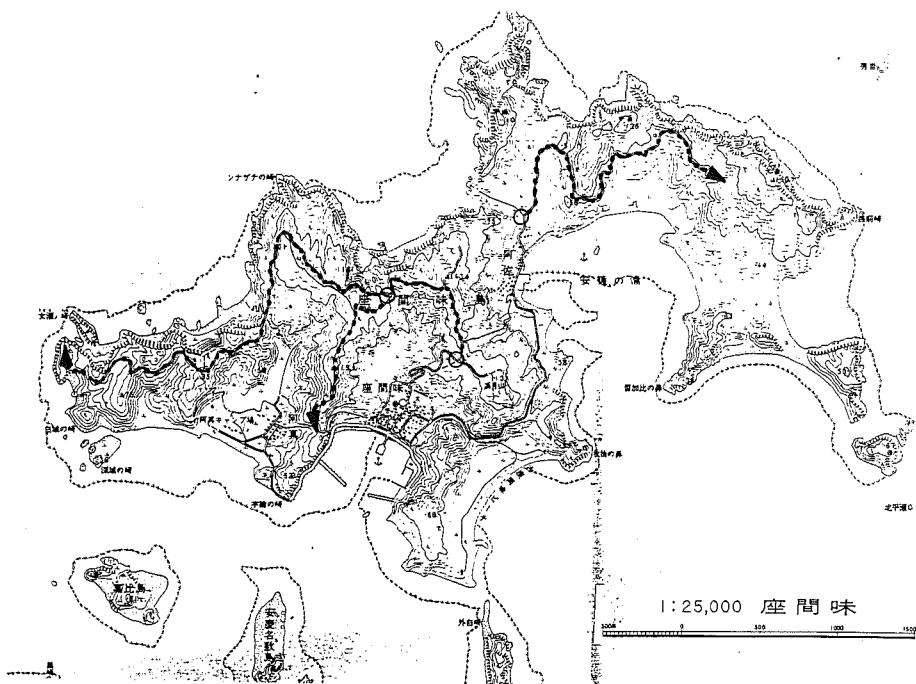


図3 座間味島における調査ライン

○：ラインの始まり ▲：ラインの終り
(国土地理院発行 1/25000 地形図を改変)

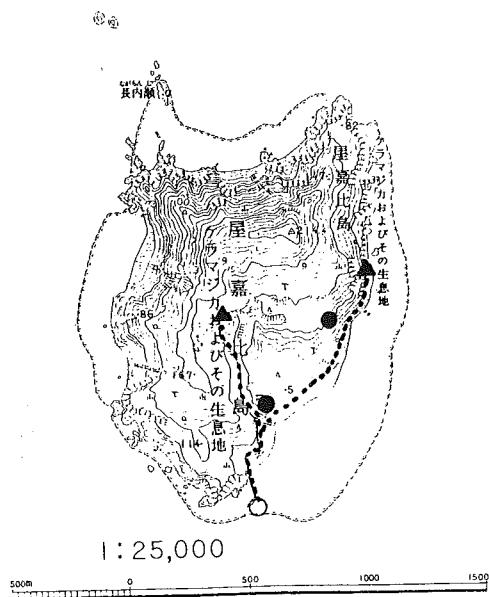


図4 屋嘉比島における調査ライン

○: ラインの始まり ▲: ラインの終わり ●: 定点調査地
(国土地理院発行 1/25000 地形図を改変)

図版1 調査地環境

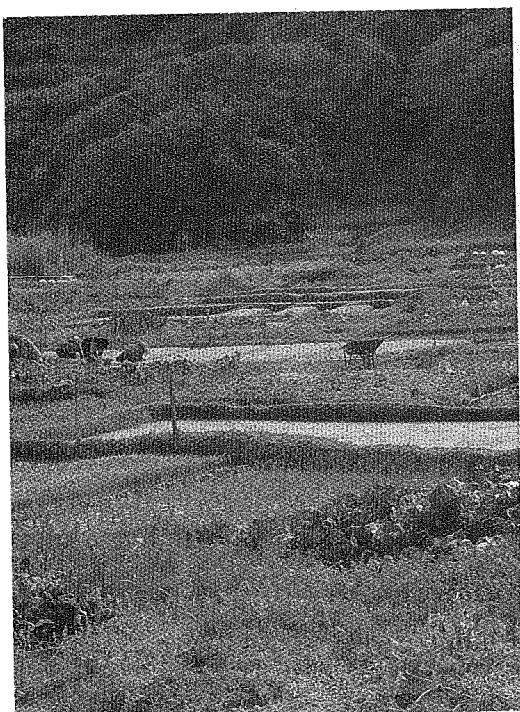


写真1 渡嘉敷島
(撮影、1986年)

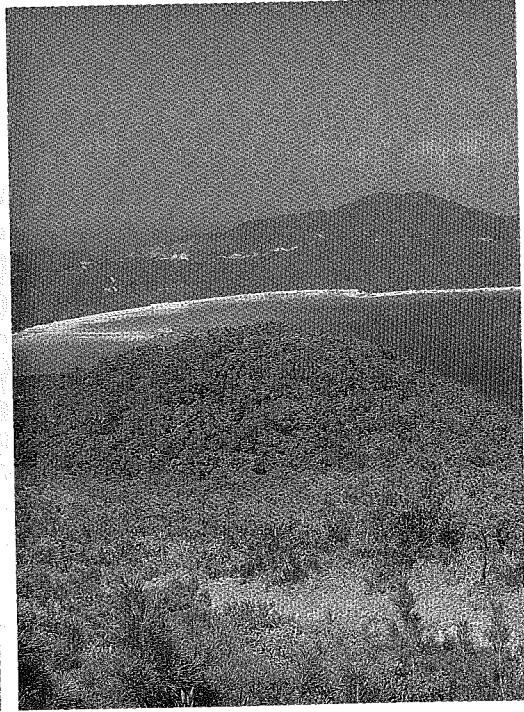


写真2 座間味島



写真3 屋嘉比島

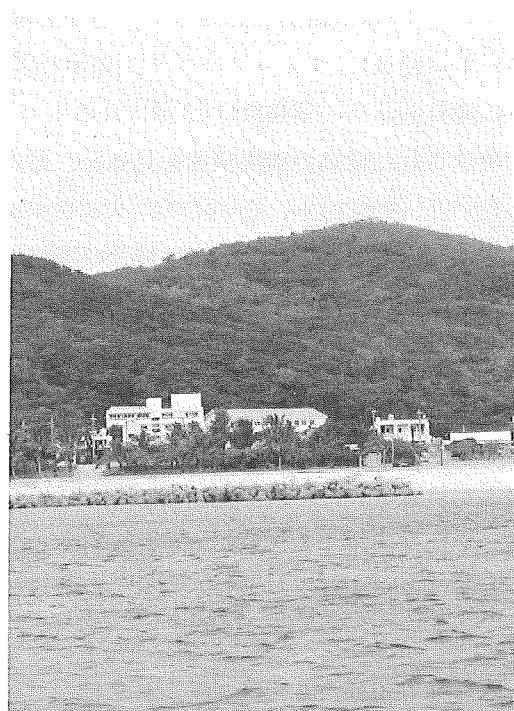


写真4 阿嘉島

調査結果及び考察

1. 慶良間諸島における鳥類の確認

鳥類調査の結果、慶良間諸島から約80種の鳥類を確認し、これにこれまで記録のある種を加えて巻末の「慶良間諸島の鳥類目録」を暫定的に作成した。その目録に示したとおり、慶良間諸島から14目32科（3亜科を含む）102種（亜種含む）の鳥類が記録されたことになる。この中では、今度の調査によって確認された55種が新たに慶良間諸島の鳥類記録として加わった。

鳥類目録の内訳についてはその種別が困難な種もあるが、留鳥として扱った種が23種（絶滅種含む）、県内では留鳥とされるが慶良間諸島にまれな冬鳥として渡ってくる種を含め、渡り鳥が79種（夏鳥8、旅鳥12、冬鳥52、迷鳥7）となり、渡り鳥が主体の鳥類相である。

以下留鳥と渡り鳥の出現状況について概説的に述べる。

1) 留鳥の出現状況について

今度の調査においては、慶良間諸島からカワセミ、カイツブリ、シジュウカラ、カラス

バトなど19種の留鳥を記録した。この記録にこれまで報告されているリュウキュウカラスバト（絶滅）、オオコノハズク、アオバズク、アカヒゲの記録を加えると、前述したように慶良間諸島の留鳥数は23種になるものと思われる。

確認された留鳥の出現状況を見ると、県内でごく普通種であり、広域分布種のメジロ、ヒヨドリ、キジバト、ウグイス、リュウキュウツバメ、セッカ、スズメ、ハシブトガラスなどは島内の集落とその周辺地域及び農耕地や森林地域といったところで目撃された。また水田や河川、河口部などの水辺の環境ではリュウキュウヨシゴイ、カワセミなどが目撃されたが、シロハラクイナやヒクイナなどは確認できなかった。海岸近くではイソヒヨドリ、クロサギなどが確認された。

山地の森林環境ではカラスバト、キジバト、メジロ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ツミなどが目撃されたが、沖縄島などで普通に見られるズアカアオバト、コゲラ、ヤマガラなどの3種は確認することができなかった。したがって、慶良間諸島では、県内では留鳥とされるハト科やキツツキ科、シジュウカラ科に属する一部の留鳥を欠いている鳥類相であると思われる。

夜行性の留鳥としては、フクロウ科のコノハズクが確認され、またこれ以外に夜行性のヤマシギ類として、琉球列島の固有種であるアマミヤマシギが1986年9月に渡嘉敷島で初めて確認された。さらに、阿嘉島でも1992年10月に写真撮影されている（山城博明私信）。

のことから、慶良間諸島の留鳥種数は表2に示したように、同様な古い島の成り立ちやイタジイ林などの森林植生を有する沖縄島や八重山諸島に比べると少く、宮古諸島や久米島に近い留鳥数である。このことは前述したように森林地域に生息するヤマガラ、ズアカアオバト、コゲラなどの確認がされなかつことによる。しかしながら、森林性の未確認鳥類については、これらの種が慶良間諸島にもともと分布していなかつたのか、あるいは分布していたが森林の改変等によりすでに激減及び絶滅してしまつたのかどうかを検討するには資料が乏しく、詳細に言及できない。しかしながら、留鳥の中にはKURODA (1925) により記録のあるリュウキュウカラスバトのように、今日ではすでに絶滅している種も見られるので、この種のように慶良間諸島で激減もしくは絶滅した種もあるものと思われる。

なお、ここで扱う留鳥の中にはアマミヤマシギなどのように繁殖の確認をしてはいないが、留鳥として扱った種も含まれている。さらに県内では留鳥に扱われているが、慶良間諸島で繁殖の可能性は低いと考えられるムラサキサギは冬鳥として扱い、厳密な意味での留鳥種数からは除外した。また、留鳥としては記録しなかつたが、座間味村史 (1989) や当山 (1983) による動物の方言調査によって、識別されるウズラ（おそらくミフウズラ）を確認することができなかつた。これは、ネズミ駆除のため1957年から1958年にかけて

イタチが放され (Uchida, 1969)、今日ではほぼ定着していることから、イタチによる捕食圧により激減しているものと思われる。

その他には、県内各地に留鳥として生息するヒクイナやシロハラクイナを確認することができなかったが、この中ではヒクイナは警戒心が強く、開けた場所にててくることは少ないので、生息しているにもかかわらず目撃できなかつたであろうと思われる種もある。したがつて、留鳥種数には今後調査がすすむと若干の変動があろう。

表2 各島地域別の留鳥種数の比較

調査地域	留鳥種数	総確認種数	備考・引用文献
慶良間諸島	23	102	
沖縄島	34	242	与那城他 (1984)
宮古諸島	21	226	久貝・山本 (1981)
八重山諸島	35	294	八重山野鳥の会 (1983)
久米島	20*	114	嵩原ら (1995)

*帰化鳥は除外

2) 渡り鳥の出現状況について

ア) 森林地域

夏季には森林地域でアカショウビン、サンコウチョウ、ホトトギスなどが渡来ってきていた。秋季にはアカハラダカが南下してきて一夜を過ごし、翌朝には群れをなしてさらに南下していく状況が見られた。また同じ時期にエゾビタキも見られる。これらは県内各地における一般的な夏季及び秋季の渡りの様相である。

冬季には各島にシロハラ、アオジ、サシバなどが渡来し、それ以外には外地島ではカシラダカ、座間味島ではミヤマホオジロ、チョウゲンボウ、トラツグミ、ツグミ、ムクドリ、屋嘉比島ではハヤブサなどが見られた。

イ) 低地の農耕地及び河川、海岸部

海岸や周辺海域では夏季にベニアジサシやエリグロアジサシなどが渡来していることが確認された。

冬季には低地の河川や海岸などでダイサギやアオサギ、コサギ、チュウサギなどサギ類の渡来を確認したが、渡嘉敷島ではまれな冬鳥と考えられるムラサキサギを確認したことは特筆すべきであろう。

シギ類ではイソシギ、アオアシンギ、キアシシギなどが確認され、チドリ類ではムナグロ、タゲリ (座間味島、渡嘉敷島) などが確認されたが、慶良間諸島では海岸干潟がほとんど発達していないので、その渡来地となる場所が少なく確認種数は少ないようと思える。

また、慶良間諸島には池や沼、河川など水辺の環境が少なく、ガンカモ類でも確認種数は少ないが、海岸でツクシガモ、コクガンなど県内でも記録の少ない種が確認された。さらに、渡嘉敷島の海岸近くではペリカン科のモモイロペリカンが確認され、ウ類ではカワウが目撃された。

ワシタカ類ではミサゴが慶留間島や座間味島などで目撃された。集落周辺の農耕地や草原、林縁などではハクセキレイやキセキレイ、ツグミ、ムクドリ、ショウビタキ、ルリビタキ、シロハラ、メボソムシクイなどが見られた。まれな鳥類としては、渡嘉敷島においてホオアカ、オジロビタキ、チュウヒ、ナベコウなどが確認された。

3) 天然記念物等貴重種の出現状況

ここで扱う貴重種としては、その地域（慶良間諸島）に固有な種、琉球列島に固有な種、国及び県指定天然記念物、環境庁（1991）によってランクづけされた絶滅危惧種や危急種等保護が必要とされる種をその範囲とした。

出現した鳥類の中では、表3に示したように、その地域（慶良間諸島のみ）の固有種の該当種がなく、琉球列島の固有種としての該当種はアカヒゲ、アマミヤマシギの2種であった。また天然記念物に該当する種としては、マガソ、コクガン、カラスバト、アカヒゲ、アマミヤマシギの5種が確認された。この中でマガソとコクガンはまれな渡来種である。

以下その主な天然記念物指定種等の貴重種の出現状況について述べる。

イ) カラスバト *Columba janthina janthina* (写真4)

今度の調査では座間味島、阿嘉島、屋嘉比島、渡嘉敷島で生息確認した。おそらくまとまつた森林地域を有するような他の島でも生息しているであろう。特に屋嘉比島では1994年11月の調査では20個体以上確認したので、本種の生息地として、最も良好であろう。なお、環境庁（1991）のランクづけでは危急種である。

ロ) コクガン *Branta bernicla* (写真5)

渡嘉敷島で1986年3月16日に1羽確認した。本個体は朝は渡嘉敷港湾の干潟にやってきて海草をたべ、夕方には無人島へ帰っていく生活を約1ヶ月間つづけた。本種は県内でも渡来記録が少ないまれ冬鳥である。これまで沖縄本島の読谷村、糸満市などで記録が見られる。なお、環境庁（1991）のランクづけでは危急種である（表3）。

ハ) ホントウアカヒゲ *Erithacus komadori komadori*

与那城（1976）によって、阿嘉島と慶留間島で確認されているが、今度の調査では生息確認はできなかった。おそらくごく小数が常緑広葉樹林などの森林地域を主体に生息しているものと思われる。なお、環境庁（1991）のランクづけでは危急種である。

ニ) アマミヤマシギ *Scolopax mira* (写真6)

本種は、琉球列島の固有種で、1980年に沖縄島北部で初めて生息確認され、嵩原（1986）

によると名護以北（本部半島を除く）の沖縄島北部の森林地域に生息しているとされる。なお本種は1994年2月には沖縄県指定の天然記念物とされている。

渡嘉敷島では1986年9月29日に大谷林道で2羽確認し、この記録が慶良間諸島における初めての記録である（図2）。また、阿嘉島でも沖縄野鳥研究会の山城博明氏によって写真撮影されている。したがって、他の島にも生息している可能性がある。

本種はこれまで奄美大島、徳之島、沖縄本島北部に生息分布するとされており、沖縄島北部と同様な島の成り立ちや植生を持つ慶良間諸島で確認されたことは、動物地理学的に興味ある分布のしかたである。

なお、嵩原ら（1995）によると、最近久米島でも生息確認がされている。本種は環境庁（1991）によるランクづけでは絶滅危惧種である（表3）。

ホ）その他の貴重種

さらに、天然記念物以外では環境庁（1991）によってランクづけされた「危急種」や「希少種」の鳥類として、ミサゴ、チュウサギ、ハヤブサ、ナベコウなど11種が確認された。これらの種はリュウキュウオオコノハズクを除いて県内各地に冬季に渡来する種である。しかしながら、まれな冬鳥であるナベコウが渡来することは特筆すべきことであろう。したがって、慶良間諸島は狭い島嶼地域でありながらこうした貴重種のいくつかが生息及び渡来する地域としての自然環境は重要であり、河川や水田などの水辺環境や森林地域の保全を図る必要があろう。

4) 確認されたまれな鳥類及び分布的に興味深い鳥類

(1) ホオアカ *Emberiza fucata* (写真7)

1986年4月29日に、渡嘉敷集落周辺の農耕地で2羽を目撃した。県内では数少ない冬鳥として渡来する。県内では、伊江島や石垣島などで記録されている（池原、1983）。

(2) ムラサキサギ *Ardea purpurea*

1986年4月29日に渡嘉敷集落後背地の水田近くで亜成鳥1羽を目撃した。県内では八重山諸島以南に留鳥として生息している。本地域にはまれな冬鳥として渡来しているものと思われる。

2. 各島における鳥類の出現概要

1) 渡嘉敷島

集落及びその周辺では留鳥のスズメ、ヒヨドリ、キジバト、リュウキュウツバメ、イソヒヨドリなどがみられ、農耕地としての水田地域にはリュウキュウヨシゴイが見られた。また、河川沿いではカワセミ、クロサギなどが見られた。

表3 慶良間諸島における貴重種の確認

種名	特別天然記念物	天然記念物	環境庁編(1991)		
			危惧	危急	希少
コクガン	・	◎	・	・	◎
マガン	・	◎	・	・	◎
カラスバト	・	◎	・	◎	・
ホントウアカヒゲ	・	◎	・	◎	・
アマミヤマシギ	・	◎*	◎	・	・
ツクシガモ	・	・	・	◎	・
チュウヒ	・	・	・	◎	・
ミサゴ	・	・	・	◎	・
ハヤブサ	・	・	・	◎	・
チュウサギ	・	・	・	・	◎
ベニアジサシ	・	・	・	・	◎
エリグロアジサシ	・	・	・	・	◎
コアジサシ	・	・	・	・	◎
ナベコウ	・	・	・	・	◎
シノリガモ	・	・	・	・	◎
リュウキュウオオコノハズク	・	・	・	・	◎

*は1994年2月に沖縄県指定天然記念物とされた。

夏季には周辺海域やチービンなどの無人島ではベニアジサシ、エリグロアジサシ、オオミズナギドリ、トウヅクカモメなどが観察された。特にチービン(神山島、ナガシヌ島等)はベニアジサシ、エリグロアジサシの集団繁殖地となっており、その環境保全が望まれる。

秋季には国立青年の家北側の展望台で500羽内外のアカハラダカの渡りが確認され、時期を同じくしてエゾビタキ(写真8)の渡りもみられる。また、9月と3月にはしばしばヤツガシラ(写真9)が渡来する。

この時期に行った夜間調査では大谷林道でヤマンギ、アマミヤマシギ、コノハズクが確認され、林道脇の立木にはアカショウビンやエゾビタキ、メジロなどが羽を休めていた。

冬季の渡り鳥としては、農耕地や林縁部ではシロハラ、アオジ、オジロビタキ、ホオアカ、チュウヒ、ムラササキサギなどが目撃された。また、水田地域にマガンやナベコウが渡来し、海岸ではツクシガモ、コクガンやペリカンなどまれな鳥類も見られる。渡嘉敷川やその河口では、カワウ、アオサギ、カワセミなどがみられる。

なお、渡嘉敷島には1974年9月にニホンキジ55羽(♂20、♀35)が放鳥されているが、

定着されていないとされている（沖縄獣友会、1983）。今度の調査でも確認することができなかつたので、おそらく定着していないだろう。

池原（1974）は渡嘉敷島から13種、田中（1987）は31種を報告している。したがつて、今度の調査記録と合わせて渡嘉敷島及びその周辺海域から65種の鳥類が記録されたことになる。

2) 座間味島

集落や集落周辺の農耕地及び林縁などではセッカ、ヒヨドリ、メジロ、ウグイス、リュウキュウツバメ、シジュウカラ、キジバトなどの留鳥が見られた。

冬季にはここにジョウビタキ（写真10）やルリビタキ（写真11）、メボソムシクイ、アオジ、サシバ、シロハラなどが渡来し、越冬していた。

座間味ダムでは、留鳥のカワセミとカイツブリがダム湖で生息し、周辺森林部にはウグイス、ハシブトガラス、メジロ、ツミ、リュウキュウサンショウクイなどが目撃された。ここでは冬季にシロハラ、アオジ、トラツグミ、ミヤマホオジロなどが渡来していた。

阿真のキャンプ場では、夏季にアカショウビンが目撃され、冬季にはツグミ、ハクセキレイ、ヤマシギなどが渡来していた。海岸線では、イソヒヨドリ、シロチドリ、クロサギが目撃された。

山地森林部の番所林道では留鳥のカラスバト、ヒヨドリ、メジロ、ウグイス、キジバトなどが目撃され、冬季にはサシバ、チョウゲンボウ、ミサゴなどが目撃された。

また番所林道における夜間調査では、ヤマシギ（写真12）、コノハズク、ゴイサギが確認されたが、アマミヤマシギは確認できなかつた。しかしながら、前述したようにアマミヤマシギは渡嘉敷島や阿嘉島で確認しているので、本島でも生息している可能性がある。

今度の調査では座間味島では46種の鳥類が記録され、その中で留鳥は19種であった。しかし、方言名でウザーと呼ばれているミフウズラは確認できなかつた。このことは前述したように本島にネズミ駆除のためイタチが導入され、現在ではほぼ定着しているため、地上性のミフウズラはイタチに捕食され、個体数が激減していることが考えられる。

留鳥の中で、繁殖確認したのはリュウキュウツバメだけである。本種は集落周辺や海岸近くで目撃されたが、ユヒナ浜にある海食洞では営巣（古巣を加え3巣）が確認された（写真13）。

KURODA（1925）によると、座間味島産の標本としてリュウキュウカラスバト、エゾヒヨドリ、ヤブサメなど21種を報告している。また池原（1974）は、ジョウビタキ、ホトトギスなど30種を座間味島の鳥類記録としている。したがつて、今度の調査記録を加え、座間味島からは56種の鳥類が記録されているものと思われる。

3) 阿嘉島

集落やその周辺農地ではメジロ、リュウキュウツバメ、ヒヨドリ、ハシブトガラスなどが目撃され、集落の北側谷間にある湿地や森林地域では冬季にシロハラがみられた。

夜間調査ではヤマシギが確認され、1989年10月にはヨタカ（写真14）とコノハズク、1992年10月にアマミヤマシギ（写真15）が写真撮影されている（山城博明私信）。

与那城（1976）によると、シロチドリ、タシギ、オオコノハズク、ヤツガシラなど25種を記録している。したがって、今度の調査記録を合わせ、この島からは34種の鳥が記録されているものと思われる。

なお、本島では冬季のみの調査であったので、夏季に調査を行う必要性があり、確認種数は今後さらに増えるであろう。

4) 慶留間島及び外地島

森林地域ではヒヨドリ、メジロ、キジバトが見られ、集落近くではイソヒヨドリやリュウキュウツバメが見られた。また、冬季にはモズ、カシラダカが渡来ってきて、越冬していた。

与那城（1976）によると、シロチドリ、コアジサシ、クロアジサシなど20種を記録している。したがって、今度の調査記録を合わせ、この島からは26種の鳥が記録されているものと思われる。

なお、本島でも冬季のみの調査であったので、夏季に調査を行う必要性があり、確認種数は今後増えるであろう。

5) 屋嘉比島

夏季の調査では夏鳥のエリグロアジサシやホトトギス、留鳥で国の天然記念物カラスバトなどの9種の鳥類を確認した。また、冬季にはハヤブサ、ジョウビタキ、アオジなど11種を確認した。

これまで屋嘉比島における鳥類については、池原（1974）や与那城（1978）などよって一部報告が見られる。今度の調査において出現した鳥類の中では、カラスバト、メジロ、ハシブトガラスなど確認された7種の留鳥と夏鳥のエリグロアジサシについては池原（1974）や与那城（1978）の報告を再確認した。しかし、夏鳥のホトトギスについては、今度の記録が屋嘉比島における初めての確認例であろう。したがって、これまでの記録を合わせ屋嘉比島から27種の鳥類が記録されたものと思われる。

本地域で特筆すべきことは、1994年11月の調査で、貴重種のカラスバトが20羽以上も確認され、本種を含む留鳥や夏季及び冬季の渡り鳥の生息地として重要な地域であることが理解される。また、鳥類以外にも調査中にも天然記念物のケラマジカ7個体を確認した。したがって、同島はこうした鳥獣の生息地および繁殖地となっていることが示唆された。

るので、今後も鳥獣保護区として島の環境保全に配慮することが望ましいと思われる。

〈要約〉

1. 慶良間諸島で1986年から1994年までに鳥類調査を実施し、暫定的に14目32科（3亜科を含む）102種（亜種を含む）の鳥類目録を作成した。
2. 確認された鳥類の内訳は留鳥23種、渡り鳥79種と渡り鳥が主体の鳥類相であった。
3. 確認された鳥類の中で、ナベコウ、コクガン、アマミヤマシギなど55種の記録は、慶良間諸島における新たな確認と思われる。
4. 留鳥の中では、アマミヤマシギが渡嘉敷島と阿嘉島で生息確認され、新たな分布地であることを指摘した。

〈参考文献〉

- 池原貞雄. 1974. 慶良間群島の陸上脊椎動物. 沖縄海岸国定公園拡張候補地学術調査報告, 国頭村東海岸・伊江島・慶良間列島. P.187-199. 沖縄県.
- 沖縄県教育委員会編. 1993. 沖縄の文化財 I, 天然記念物編. PP.44. 沖縄県教育委員会.
- 沖縄県環境保健部編. 1993. 環境保健行政の概要. 沖縄県.
- 大城逸朗. 1983. 座間味島の地質, 県立博物館総合調査報告書Ⅲ, P.11-15. 沖縄県立博物館.
- 沖縄県獣友会編. 1983. 狩猟鳥類個体数調査報告書, (日本キジ). 沖縄県獣友会.
- 垣花義孝. 1978. 屋嘉比島および久場島の開発の歴史, ケラマジカ実態調査報告Ⅱ, 沖縄県天然記念物調査シリーズ第12集. P.37-38. 沖縄県教育委員会.
- 新城和治・宮城康一・日越国昭. 1977. 屋嘉比島の植物相. ケラマジカ実態調査報告, 沖縄県天然記念物調査シリーズ, 第11集. P.92-104. 沖縄県教育委員会.
- 新納義馬・木華島辰磨・宮城康一. 1974. 慶良間列島の植生. 沖縄海岸国定公園拡張候補地学術調査報告, 国頭村東海岸・伊江村・慶良間列島. P.169-186. 沖縄県.
- 宮城康一・新城和治・日越国昭, 1977. 屋嘉比島の植生, ケラマジカ実態調査報告, 沖縄県天然記念物調査シリーズ, 第11集. P.105-118. 沖縄県教育委員会.
- 宮城康一. 1974. 慶良間列島の植物. 沖縄海岸国定公園拡張候補地学術調査報告国頭村東海岸・伊江村・慶良間列島. P.143-168. 沖縄県.
- 与那城義春, 1978. 阿嘉、慶留間、屋嘉比の鳥類. ケラマジカ実態調査報告Ⅲ, 沖縄県天然記念物調査シリーズ第12集. P.151-156. 沖縄県教育委員会

- 座間味村役場編, 1989. 座間味村史上巻, 自然・歴史・産業. 710PP.
- 当山昌直, 1983. 阿嘉島の動物の方言について. 県立博物館総合調査報告書Ⅲ, P. 23-29.
沖縄県立博物館.
- 岡田弥一郎・木場一夫・仲宗根寛. 1959. II, AVES 鳥網. 沖縄産動物目録. P. 5-25.
沖縄生物教育研究会.
- 与那城義春・久貝勝盛・玉城常雄. 1984. 沖縄の鳥類. 沖縄の生物. P. 267-280. 沖縄生物教育研究会.
- 佐久本敝. 1984. 沖縄島周辺離島の植物. 沖縄の生物. P. 191-200. 沖縄生物教育研究会.
- 八重山野鳥の会. 1983. 八重山地方鳥類目録, 10周年記念誌. p28-38. 八重山野鳥の会.
- 久貝勝盛・山本晃. 1981. 宮古諸島の鳥類目録. 沖生研第14号, 沖縄生物教育研究会.
- 環境庁, 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物一レッドデータブック一脊椎動物編,
330PP. 野生生物研究センター.
- 日本鳥学会. 1974. 日本産鳥類目録第5版. pp120. 保育社.
- NAGAMICHI KURODA 1925. A CONTRIBUTION TO THE KNOWLEDGE OF THE AVIFAUNA OF THE RIUKIU ISLANDS AND THE VICINITY, Published by the author.
- 嵩原建二. 1986. 沖縄北部におけるアマミヤマシギの分布について. あじまあ. 名護博物館.
- 嵩原建二・久貝勝盛・瀬名波任. 1995. 久米島で確認された鳥類. 久米島総合調査報告書.
P. 65-94. 沖縄県博物館.
- 田中一郎. 1987. 第三節動物. 渡嘉敷村史, 資料編. P. 411. 渡嘉敷村.
- 琉球新報社編, 1983. 奄美・沖縄鳥類目録. 写真集沖縄の野鳥, p.54-62. 誠文堂新光社.
- Uchida, T. 1969. Rat-control procedures on the Pacific island, with special reference to the efficiency of biological control ; agents. II. Efficiency of the Japanese Weasel, *Mustela sibirica itatsi* Temminck & Schlegel, as a rat-control agent in the Ryukyuys. Jour. Fac. Agr, Kyushu Univ, 15(5) : 355-385.

図版2 慶良間諸島で確認された鳥類（1）



写真4 カラスバト
(座間味島, 1994.11.21)



写真5 コクガン
(渡嘉敷島, 1986.3.16)



写真6 アマミヤマシギ
(渡嘉敷島, 1986.9.29)



写真7 ホオアカ
(渡嘉敷島, 1986.4.29)



写真8 エゾビタキ
(渡嘉敷島, 1986.9.29)

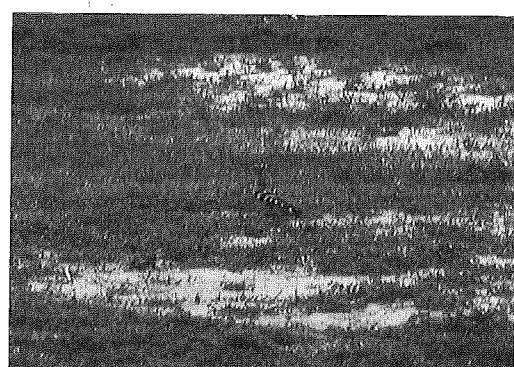


写真9 ヤツガシラ
(渡嘉敷島, 1987.9.17)

図版3 慶良間諸島で確認された鳥類（2）



写真10 ショウビタキ
(座間味島, 1994.12.2)



写真11 ルリビタキ
(座間味島, 1991.1.11)



写真12 ヤマシギ
(座間味島, 1991.1.10)

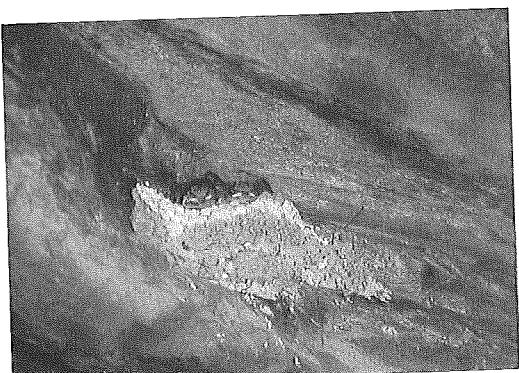


写真13 リュウウェツバメ
(座間味島, 1994.7.26)



写真14 ヨタカ
(阿嘉島, 1989.10)

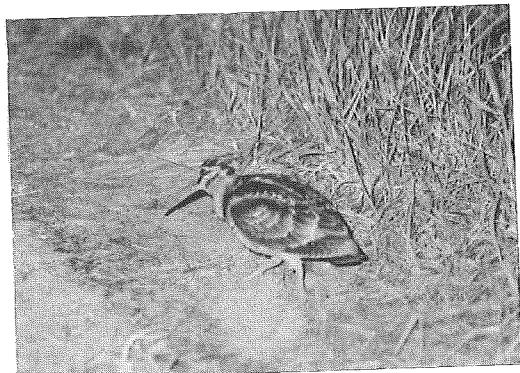


写真15 アマミヤマシギ
(阿嘉島, 1992.10)

慶良間列島の鳥類目録（暫定）

Check list of Birds in the Kerama Islands.

凡例：(1) 調査地：T, 渡嘉敷島, Z, 座間味島, A, 阿嘉島, G, 慶留間島, Y, 屋嘉比島.

(2) 確認状況：○, 生息確認. ◎, 繁殖確認

(3) 生息状況：R, 留鳥. S, 夏鳥. T, 旅鳥. W, 冬鳥. A, 迷鳥.

(4) 観察記録：確認地, 日付, 確認個体数, () は場所の順

種名 Species	島 Islands					状況 Status
	T	Z	A	G	Y	
カイツブツリ目 PODICIPEDIFORMES						
カイツブリ科 PODICIPEDIFORMES						
1. カイツブリ <i>Podiceps ruficollis poggei</i>		○				R
1994/12/2, 1. (座間味ダム)						
ミズナギドリ目 PROCELLARIIFORMES						
ミズナギドリ科 PROCELLARIIDAE						
2. オオミズナギドリ <i>Calonectris leucomelas</i>	○					W
1994/11/21, 3.						
3. アカアシミズナギドリ <i>Puffinus carneipes</i>	○					A
慶良間諸島近海 : 1986/3 (沖縄野鳥研究会、1986)	○					
グンカンドリ科 FREGATIDAE						
4. コグンカンドリ <i>Fregata ariel ariel</i>	○					A
1987/7/5, 1. (渡嘉敷海岸)						
ペリカン目 PELECANIFORMES						
ペリカン科 PELECANIDAE						
5. モモイロペリカン <i>Pelecanus onocrotalus</i>	○					A
1983/7/19, 1. (渡嘉志久海岸)						
ウ科 PHALACROCORACIDAE						
6. カワウ <i>Phalacrocorax carbo hanedae</i>	○					W
1985/11/5, 1. (渡嘉敷川)						
コウノトリ目 CICONIIFORMES						
サギ科 ARDEIDAE						
7. リュウキュウヨシゴイ <i>Ixobrychus cinnamomeus</i>	○					R
8. ササゴイ <i>Butorides striatus amurensis</i>	○					W
渡嘉敷島 1986/4/29, 1.						
9. ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax nycticorax</i>		○				W
1994/11/21, 1. (座間味)						
10. アマサギ <i>Bubulcus ibis coromandus</i>	○	○				W/T
渡嘉敷島 1986/3/24, 3. 1986/4/29, 1.						
座間味島 1994/12/2, 1						
11. コサギ <i>Egretta garzetta garzetta</i>	○	○				W
渡嘉敷島 1986/4/29, 1.						
座間味島 1994/12/2, (1).						

種名 Species	島 Islands					状況 Status
	T	Z	A	G	Y	
12. チュウサギ <i>Egretta intermedia intermedia</i> 座間味島 1994/12/3, (1) 渡嘉敷島 1986/4/29, 1.	○	○				W
13. クロサギ <i>Egretta sacra sacra</i> 渡嘉敷島 1986/4/29, 1. 阿嘉島・慶留間島：与那城（1976）	○	○	○	○	○	R
14. ムラサキサギ <i>Ardea purpurea manilensis</i> 渡嘉敷島 1986/4/29, 1.	○					W
15. アオサギ <i>Ardea cinerea jouyi</i> 渡嘉敷島：池原（1974） コウノトリ科 CICONIDAE	○					W
16. ナベコウ <i>Ciconia nigra</i> 1987/11/22, 1. (渡嘉敷水田)	○					A
ガシカモ目 ANSERIFORMES ガシカモ科 ANATIDAE						
17. マガシ <i>Anser fabalis frontalis</i> 1989/11/22, 1. (渡嘉敷水田)	○					W
18. コクガシ <i>Branta bernicla</i> 1986/3/16, 1. (渡嘉敷海岸)	○					W
19. コガモ <i>Anas crecca crecca</i> 渡嘉敷島：沖縄県獣友会（1983）	○					W
20. シノリガモ <i>Histrionicus histrionicus</i> 座間味島：池原（1974）		○				A
21. ツクシガモ <i>Tadorna tadorna</i> 渡嘉敷島 1990/2/26, 1.	○					W
ワシタカ目 FALCONIFORMES ワシタカ科 ACCIPITRIDAE						
22. ミサゴ <i>Pandion haliaetus haliaeetus</i> 慶留間島 1992/1/21, 1. 座間味島 1994/12/3, 4. 渡嘉敷島 1989/1/2, 1.	○	○		○		W
23. ツミ <i>Accipiter gularis gularis</i> 座間味ダム：1994/12/3, 4. 阿嘉島 1992/1/21, 1.		○	○			R
24. アカハラダカ <i>Accipiter soloensis</i> 渡嘉敷島 1985/9/28, 1. 1988/9/26, 1.	○					T
25. サシバ <i>Butastur indicus</i> 座間味島 1994/12/2, 1. (番所林道) 慶留間・阿嘉島・屋嘉比島：与那城（1976）	○	○	○	○	○	W
26. チュウヒ <i>Circus aeruginosus spilonotus</i>	○					W

種名 Species	島 Islands					状況 Status
	T	Z	A	G	Y	
渡嘉敷島 1986/4/29, 1.						
27. マダラチュウヒ <i>Circus melanoleucos</i>	○					W
渡嘉敷島：沖縄野鳥研究会（1986）						
ハヤブサ科 FALCONIDAE						
28. チョウゲンボウ <i>Falco tinnunculus interstinctus</i>		○			○	W
座間味島 1994/12/3, 1. (番所林道)						
屋嘉比島：与那城（1976）						
29. ハヤブサ <i>Falco peregrinus japonicus</i>	○				○	W
座間味島：Kuroda (1925)						
屋嘉比島：1994/11/21, 1						
チドリ目 CHRADRIIFORMES						
チドリ科 CHARADRIIDAE						
30. シロチドリ <i>Charadrius alexandrinus nihonensis</i>	○	○	○	○	○	R/W
慶留間島・阿嘉島・屋嘉比島：与那城（1976）						
31. コチドリ <i>Charadrius dubius curonicus</i>		○				W
阿嘉島：与那城（1976）						
32. タゲリ <i>Vanellus vanellus</i>	○	○				W
座間味港緑地公園 1994/12/2, (1)						
渡嘉敷島 1986/12/9, 1.						
33. ムナグロ <i>Pluvialis dominica foulva</i>	○					W
シギ科 SCOLOPACIDAE						
34. アオアシシギ <i>Tringa nebularia</i>	○					W
渡嘉敷島：1986/5/19, 1.						
35. キアシシギ <i>Tringa brevipes</i>	○		○		○	T
渡嘉敷 1986/5/19, 1.						
阿嘉島・屋嘉比島：与那城（1976）						
36. イソシギ <i>Tringa hypoleucos</i>	○	○	○	○	○	W
座間味島：1994/12/3, (1)						
阿嘉島・慶留間島・屋嘉比島：与那城（1976）						
37. クサシギ <i>Tringa ochropus</i>	○					W
田中（1987）						
38. ダイシャクシギ <i>Numenius arquata orientalis</i>				○		T
屋嘉比島：与那城（1976）						
39. チュウシャクシギ <i>Numenius phaeopus variegatus</i>				○		T
屋嘉比島：与那城（1976）						
40. タシギ <i>Gallinago gallinago gallinago</i>			○			W
阿嘉島：与那城（1976）						
41. ヤマシギ <i>Scolopax rusticola</i>	○	○	○			W
座間味島 1994/11/21, 3. 1994/12/4, 3.						
座間味島 1991/1/10, 3.						

種名 Species	島 Islands					状況 Status
	T	Z	A	G	Y	
渡嘉敷島 1986/9/29, 1 阿嘉島 1991/1/9, 1.			○			R
42. アマミヤマシギ <i>Scolopax mira</i> 渡嘉敷島: 1986/9/29, 2 阿嘉島 1992/10. (山城博明私信) カモメ科 LARIDAE	○	○				S
43. ベニアジサシ <i>Sterna dougallii bangsi</i> 渡嘉敷島: 池原 (1974) 座間味島: 日本鳥学会 (1974) チービン (ナガシヌ島) 1989/7/28, 1000	○	○				S
44. コアジサシ <i>Sterna albifrons sinensis</i> 座間味島: 池原 (1974)	○				○	S
45. エリグロアジサシ <i>Sterna sumatrana sumatrana</i> 座間味島: 日本鳥学会 (1974) 屋嘉比島: 1994/7/26, 1. チービン (ナガシヌ島) : 1989/7/28, 40.						S
安室島: 1972/7. : 池原 (1974)						
46. セグロアジサシ <i>Sterna fuscata nubilosa</i> 座間味島: 琉球新報社 (1983)	○			○		S
47. クロアジサシ <i>Anous stolidus pullus</i> 屋嘉比島: 与那城 (1976)				○		S
48. ウミネコ <i>Larus crassirostris</i> 渡嘉敷島港内 1992/1/5, 11.	○					W
49. トウヅクカモメ <i>Stercorarius pomarinus</i> 渡嘉敷島沖 1986/4/29, 1.	○					W
ハト目 COLUMBIFORMES						
ハト科 COLUMBIDAE						
50. リュキュウキジバト <i>Streptopelia orientalis stimpsoni</i>	○	○	○	○	○	R
51. カラスバト <i>Columba janthina janthina</i> 渡嘉敷島 1986/4/29, 1. 座間味島, 1994/12/4, 1. (阿佐), 1994. 11. 21. 1.	○	○	○		○	R
屋嘉比島 1994/11/21, 20+. 阿嘉島: 与那城 (1976)						
52. リュウキュウカラスバト <i>Columba jouyi</i> 座間味島: KURODA (1925)		○				絶滅
ホトトギス目 CUCULIFORMES						
ホトトギス科 CUCULIDAE						
53. ホトトギス <i>Cuculus poliocephalus poliocephalus</i> 屋嘉比島: 1994/7/26, 1. 阿嘉島: 与那城 (1976) 渡嘉敷島: 池原 (1974)	○		○		○	S/T

種名 Species	島 Islands					状況 Status
	T	Z	A	G	Y	
フクロウ目 STRIGIFORMES						
フクロウ科 STRIGIDAE						
54. リュウキュウオオコノハズク <i>Otus bakkamoena pryeri</i> 与那城 (1976)			○			R
55. リュウキュウコノハズク <i>Otus scops elegans</i> 座間味島 1994/11/21, 3.	○	○	○			R
56. リュウキュウアオバズク <i>Ninox scutulata totogo</i> 座間味島：池原 (1974)		○				R
ヨタカ目 CAPRIMULGIFORMES						
ヨタカ科 CAPRIMULGDAE				○		
57. ヨタカ <i>Caprimulgus indicus jotaka</i> 阿嘉島, 1989/10 (山城博明私信)			○			W
アマツバメ目 APODIFORMES						
アマツバメ科 APODIDAE						
58. アマツバメ <i>Apus pacificus kurodae</i> 渡嘉敷島 1986/4/29, 1.	○					S
ブッポウソウ目 CORACTIFORMES						
ヤツガシラ科 UPUPIDAE						
59. ヤツガシラ <i>Upupa epops saturata</i> 座間味島 1991/1, 1 (高月山) 渡嘉敷島 1986/3/24, 1. 1987/9/17, 1. 1988/9/25, 1. 阿嘉島：与那城 (1976)	○	○	○	○		T
カワセミ科 ALCEDINIDAE						
60. カワセミ <i>Alcedo atthis bengalensis</i> 渡嘉敷島 1986/3/24, 1. 座間味島：1994/12/2, 1. (座間味ダム)	○	○				R
リュウキュウアカショウビン <i>Halcyon coromanda bangsi</i>	○		○	○		S
渡嘉敷島 1986/9/29, 1 阿嘉島・慶留間島：与那城 (1976)						
スズメ目 PASSERIFORMES						
モズ科 LANIIDAE						
62. モズ <i>Lanius bucephalus bucephalus</i> 慶留間島 1992/1/21, 1.				○		W
63. シマアカモズ <i>Lanius cristatus lucionensis</i> 座間味島, 1994/12/2(1), (阿真)	○					W
ツバメ科 HIRUNDINIDAE						
64. ツバメ <i>Hirundo rustica gutturalis</i> 渡嘉敷島 1986/4/29, 1.	○		○	○	○	T

種名 Species	島 Islands					状況 Status
	T	Z	A	G	Y	
阿嘉島・慶留間島・屋嘉比島：与那城（1976）						
65. リュウキュウツバメ <i>Hirundo tahitica namiyei</i>	◎	◎	○	○	○	R
座間味島：1994/7/26（ユヒナ浜海食洞古巣3）						
渡嘉敷島 1986/4/29, 1. 1987/7/5, 3.（巣立ち）						
66. コシアカツバメ <i>Hirundo daurica japonica</i>	○					T
渡嘉敷島 1987/7/21, 1.						
67. イワツバメ <i>Delichon urbica dasypus</i>	○					T
渡嘉敷島 1986/4/29, 1.						
セキレイ科 MOTACILLIDAE						
68. マシジロツメナガセキレイ <i>Motacilla flava simillima</i>	○					W/T
渡嘉敷島 1986/9/20, 1.						
69. キセキレイ <i>Motacilla cinerea robusta</i>		○	○	○	○	W
座間味島 1994/12/3, 1						
阿嘉島・慶留間島・屋嘉比島：与那城（1976）						
70. ハクセキレイ <i>Motacilla alba lugens</i>		○				W
座間味島 1991/1/11, 3.						
71. ホオジロハクセキレイ <i>Motacilla alba leucopsis</i>		○				W
座間味島：1991/1/11, 1.						
72. ピンズイ <i>Anthus hodgsoni hodgsoni</i>	○	○				W
座間味島：1991/1/11, 3.						
渡嘉敷島 1986/4/29, 1.						
73. ムネアカタヒバリ <i>Anthus cervinus</i>	○					W
渡嘉敷島 中田（1987）						
サンショウクイ科 CAMPEPHAGIDAE						
74. リュウキュウサンショウクイ						R
<i>Pericrocotus divaricatus tegimae</i>						
座間味島，1994/12/3(3)：座間味ダム	○	○				
阿嘉島：与那城（1976）						
ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE						
75. エゾヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis hensonii</i>	○	○				A
座間味島：KURODA（1925）						
76. リュキュウヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis pryeri</i>	○	○	○	○	○	R
座間味島：1991/1/11, 1.						
ヒタキ科 MUSCICAPIDAE						
ツグミ亜科 TURDINAE						
77. ホントウアカヒゲ <i>Erithacus komadori namiyei</i>			○	○		R
阿嘉島・慶留間島：与那城（1976）						
78. ルリビタキ <i>Tarsiger cyanurus cyanurus</i>	○	○				W
座間味島：1991/1/11, 1.						
渡嘉敷島 田中（1987）						

種名 Species	島 Islands					状況 Status
	T	Z	A	G	Y	
79. ジョウビタキ <i>Phoenicurus auroreus auroreus</i> 座間味島 1994/11/22, ♂2. 1994/12/2, ♂2. 1991/1/11, ♂1. 屋嘉比島 1994/11/21, ♀1. 渡嘉敷島 田中 (1987)	○	○			○	W
80. オジロビタキ <i>Ficedula parva albicilla</i> 渡嘉敷島：沖縄野鳥研究会 (1986)	○					W
81. ノビタキ <i>Saxicola torquata stejnegeri</i> 座間味島：1989/10, ♀1. 山城博明私信		○				W
82. イソヒヨドリ <i>Monticola solitarius philippensis</i> 座間味島, 屋嘉比島, 慶留間島 渡嘉敷島 田中 (1987)	○	○	○	○	○	R
83. シロハラ <i>Turdus pallidus</i> (慶良間列島全域)	○	○	○	○	○	W
84. アカハラ <i>Turdus Chrysolaus</i> 渡嘉敷島 田中 (1987) 座間味島 1994/12/2, 1. (番所林道)	○	○				W
85. ツグミ <i>Tuydus naumannni eumomus</i> 座間味島 1994/12/2, 2. (小中学校校庭) 阿嘉島・慶留間島 1992/1/21, 1.		○	○	○		W
86. トラツグミ <i>Turdus dauma aureus</i> 1994/12/5, (1) ウグイス亜科 SYLVIINAE	○					W
87. ヤブサメ <i>Cettia squameiceps</i> 座間味島 : KURODA (1925)		○			○	W
88. リュウキュウウグイス <i>Cettia diphone riukiuensis</i> 座間味島 : 1994/12/2, 5. 屋嘉比島 : 1994/7/26, 3.	○	○	○	○	○	R
89. セッカ <i>Cisticola juncidis brunneiceps</i> 座間味島 : 1974/12/2, 2. 座間味島・渡嘉敷島 : 池原 (1974) 屋嘉比島・阿嘉島・慶留間島 : 与那城 (1976)	○	○	○	○	○	R
90. メボソムシクイ <i>Phylloscopus borealis</i> 座間味島 : 1992/1/21, 1. ヒタキ亜科 MUSCICAPINAE		○				W
91. エゾビタキ <i>Muscicapa griseisticta</i> 渡嘉敷島 1986/9/28, 1. カササギヒタキ亜科 MONARCHINAE	○					T
92. リュウキュウサンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata illex</i>			○	○		S

種名 Species	島 Islands					状況 Status
	T	Z	A	G	Y	
阿嘉島・慶留間島：与那城（1976） シジュウカラ科 PARIDAE		○			○	R
93. オキナワシジュウカラ <i>Parus major okinawae</i> 屋嘉比島：池原（1974） 座間味島 1994/12/3, 1. メジロ科 ZOSTEROPIDAE	○	○	○	○	○	R
94. リュウキュウメジロ <i>Zosterops japonica loochooensis</i> 95. シマメジロ <i>Zosterops japonica insularis</i> 座間味島：KURODA（1925） ホオジロ科 EMBERIZIDAE	○	○	○	○	○	A
96. アオジ <i>Emberiza spodocephala personata</i> 座間味島 1994/12/2, 10：学校裏 渡嘉敷島 1986/4/29, 1. 屋嘉比島 1991/11/21, 1. 慶留間島 1992/1/21, 1 阿嘉島 1992/1/21, 3.	○	○	○	○	○	W
97. カシラダカ <i>Emberiza rustica latifascia</i> 慶留間島・外地島 1992/1/21, 1.				○		W
98. ミヤマホオジロ <i>Emberiza elegans elegans</i> 座間味島 1994/12/3, (1)：学校裏 渡嘉敷島 田中（1987）	○	○				W
99. ホオアカ <i>Emberiza fucata fucata</i> 渡嘉敷島 1986/4/29, 2. 渡嘉敷島：沖縄野鳥研究会（1993） ハタオリドリ科 PLOCEIDAE	○					W
100. スズメ <i>Passer montanus saturatus</i> ムクドリ科 STURNIDAE	○	○	○	○		R
101. ムクドリ <i>Sturnus cineraceus</i> 座間味島 1991/11/22, 1. カラス科 CORVIDAE		○				W
102. リュウキュウハシブトカラス <i>Corvus macrorhynchos connectens</i> 確認種数 全体102種	○	○	○	○	○	R

備考、種名の扱いは、日本鳥学会（1974）にしたがった。

生息状況は、琉球新報社（1983）と沖縄野鳥研究会（1993）にしたがった。